

Gift for the Next 100 Years

Vol.1

次の100年に向けた贈り物

2011年、日本キャンプ協会は創立45周年を迎え、「Gift for the Next 100 Years」を合言葉に、次の世代に受け継ぐキャンプをつくる取り組みを始めていました。

そして2011年は、組織キャンプ150周年の年でもあります。1861年、アメリカの教育者フレデリック・ガンが、自らの主宰する学校の生徒たちと移動型キャンプを行ったのが組織キャンプの始まりと言われています。その時からキャンプは、人の成長や社会的課題解消のための方法として、常に人と社会にかかわり続けてきました。

Gift for the Next 100 Years、つまり、次の100年に向けた贈り物となるキャンプはどんなものだろうか？ 今、私たちが暮らす社会の中にはどんな課題があり、キャンプになにができるだろうか？ そんなことを考えているとき、2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震が起こりました。

贈り物であるキャンプは、できることならば明るく楽しいものであってほしいと願います。しかし、目の前の現実を直視した時、「生きていく中で直面することが避けられない悲しみと折り合いをつけて生きていく力を手に入れるためのキャンプ」の意味が浮かび上がってきました。

グリーフ・キャンプ

おそらく多くの人にとって「グリーフ・キャンプ」は、ほとんど耳にしたことないことばでしょう。「グリーフ (Grief)」とは「悲嘆」、つまり悲しみ嘆くことです。その悲しみを自分なりに整理する作業を「グリーフワーク」、その支援を「グリーフケア」と言います。「グリーフケア」を取り入れたキャンプ、それが「グリーフ・キャンプ」です。

地震の直後、世界中のキャンプに携わる方々から日本キャンプ協会にお見舞いのメールが届き、その中に「私たちになにができる？」との問いかけがありました。

今回の震災では、地震の揺れのみならず、津波の被害が大きく、大切なものを跡形もなく失った方が多くいました。失ったこと^{あかし}の証のないままに、その喪失を認めるのはとても難しいことです。いつまでも心の整理ができないままに、つらい毎日を強いられることになるのではないかと、そのような方々のためにキャンプでなにかできることはないかと考えずにはられません。

「被災した子どもたちの心のケアにかかわることをしたい」

そう伝えるとすぐに資金集めを始めるというニュースと、キャンプが子どもたちの心のケアにかかわってきたいくつもの事例の情報が届きました。

その中のひとつに、Camp Fire USA という団体がテキサスで行っている El Tesoro de la Vida (スペイン語で「いのちの宝物」の意味) がありました。

これは大切な人を亡くした経験を持つ子どもたちのためのグリーフ・キャンプです。子どもたちは、グリーフケアに関するトレーニングを受けたグループカウンセラーとともに1週間を過ごします。その時間のほとんどは乗馬やアーチェリーなど伝統的なプログラムを楽しむことに費やされますが、ほんの少し、自分の中にある悲しみとどう付き合うかを考える時間を持ちます。

El Tesoro de la Vida は25年を超える歴史を持ち、カウンセラーとなって戻ってくる元キャンパーも多いといえます。このことは、グリーフ・キャンプの有意性を物語っているように思えました。

これこそ日本キャンプ協会にできる、日本キャンプ協会らしい支援のあり方ではないか。こうして、このプロジェクトの取り組みが始まりました。

前出の El Tesoro de la Vida のパンフレットに以下のフレーズが書かれています。

**We cannot always choose the way we are hurt,
but we can choose the way we heal.**

私たちは傷つく方法を選ぶことはできないが、
癒す方法は選ぶことができる

被災した子どもたちは思いがけず、悲しみに直面することになってしまいました。その悲しみを癒す方法として選んでもらえるようなキャンプを目指したいと思います。

※El Tesoro de la Vida については、143号で詳しくご紹介します。

あせらず、ていねいに

このプロジェクトは、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、財団法人日本YMCA同盟とともに、国内外の多くのキャンプ関連団体の協力のもとで進めていきます。途中、リフレッシュのためのキャンプも計画していますが、グリーフ・キャンプの実施については、地震から1年後の春休みのころを考えています。

遅すぎると思われるかもしれませんが、このキャンプを行うた

グリーンフ・キャンプ・プロジェクトの経緯と概要

めにはいくつかのハードルがあります。

たとえば、子どもたちとキャンプ生活をともにするカウンセラーのトレーニングです。これは子どもたちのグリーンワークをよい形で進めるためだけでなく、カウンセラー自身が子どもたちの悲しみに巻き込まれないよう予防するためにも必要です。そのためには海外の事例を参考にしつつも、心理の専門家と協力して、日本ならではのキャンプのプログラム、そしてカウンセラートレーニングのプログラムをつくらなければなりません。

そして、キャンパーとなる子どもたちとどのような関係を築いていくか。キャンプ1回きりのつながりとならないよう、仕組みづくりも一歩一歩進めます。

あせらず、ていねいに、5年以上を目標にできるだけ長期にわたって実施し、次の100年に向けた贈り物となるキャンプをつくりたいと思います。

プロジェクトの概要

事業名

Gift for the Next 100 Years キャンププロジェクト
災害に遭った子どもたちのためのグリーンフ・キャンプ

目的

1. 東北地方太平洋沖地震の被災者にキャンプを通じたグリーンワークの機会を提供し、心の復興の支援を行う
2. 社会的課題の解決に取り組み続けてきた組織キャンプ150年の歴史の通り、新しい社会とのかかわりを模索する
3. 国内のキャンプの質を高めたり、新しい課題に取り組んだりするきっかけとなるようなさまざまな実践への関心を高め、国内外の団体等との連携を深める

期間

2011年4月から数年間

※5年以上を目標に、被災地の復興状況に合わせて継続的に実施する

実施方法

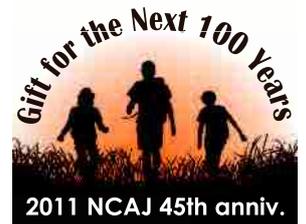
- ・ 海外の先行事例の研究と国内で実施するための調整作業
 - ・ カウンセラーのトレーニング
 - ・ 一般の支援者を含む広く社会に向けた啓発活動（キャンプアカデミーなど）
 - ・ 被災児童（特に家族を失った子どもたち）を対象としたキャンプの実施
- ※ グリーンケアを目的とした第1回のキャンプは2012年3月ごろを予定（別途、リフレッシュを目的としたキャンプを2011年夏～秋に企画予定）
- ・ 国内外に向けた事業報告の実施と継続に向けた検討

主催

社団法人日本キャンプ協会
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
財団法人日本YMCA同盟

協力団体

各都道府県キャンプ協会・公益財団法人東京YWCA・社団法人ガールスカウト日本連盟・公益財団法人ボーイスカウト日本連盟・財団法人ハーモニセンター・International Camping Fellowship・Asia Oceania Camping Fellowship・American Camp Association・Australian Camps Association・Canadian Camping Association・Camp Fire USA ほか（一部予定・順不同）



東日本大震災復興支援事業のための募金にご協力下さい

日本キャンプ協会では、グリーンフ・キャンプを含め、被災地域支援のための事業を進める予定です。支援事業のための募金を行っておりますので、ぜひご協力ください。

郵便局の振替口座は右のとおりです。

口座番号：00120-7-66441
加入者名：(社)日本キャンプ協会

※ 郵便局に備え付けの払込取扱票をお使いください。
※ 他の金融機関からは以下へお振り込み下さい。
ゆうちょ銀行〇一九(レイイチキュー)支店 当座 0066441

本コーナーでは、グリーンフ・キャンプ・プロジェクトに関連する情報を継続してお伝えします。次号は、5月21日に行われたキャンプアカデミー「グリーンケアとキャンプ」の内容をお伝えする予定です。